

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年9月19日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部 国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年8月30日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	ドイツ
留学先大学	ジーゲン大学(日本語名) Universität Siegen(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語、ドイツ語/英語
留学期間	2023年9月～2024年8月
留学先大学で在籍した学年	なし年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名:学部1 現地言語での名称:Fakultät I <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 10 月上旬～3 月末 2 学期: 4 月上旬～9 月末 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	13784 人
創立年	1972 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	日本円	備考
授業料	320.4*2 学期	103000 円	授業料というより登録料。ドイツ全ての普通列車とバスが無料になるチケットがもらえる。
宿舍費	267*12 ヶ月	511000 円	家賃は 4 万 3 千円ほど。
食費	160 ほど*11 ヶ月	280000 円	あまり覚えていない。
図書費		ほぼ 0 円	
学用品費		ほぼ 0 円	
携帯・インターネット費		12000 円	楽天モバイルの海外ローミング。
現地交通費		0 円	授業料を払っていたため無料。(□大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		150000 円	おそらくパーティ、遊園地などにこのくらい支払った。
被服費		ほぼ 0 円	1 万円も払っていない。
医療費		0 円	
保険費	128*11	224000 円	形態:Barmer
渡航旅費		161000 円	帰りはマイル利用により 5 万円ほど
ビザ申請費	100	15000 円	
雑費		ほぼ 0 円	
その他		123400 円	明治大学により義務付けられた保険。
その他	旅行代	400000 円	おそらく。
合計	14400	2303000 円	明治大学から 30 万円の補助金を受け取った。これらを差し引くと 200 万円を支払った事になる。 上の表で食費、教養娯楽費、旅行代は予想であり、あまり正しくない。ただ、それ以外の項目はほぼ正確である。

渡航関連

渡航経路
往路 出発地: 成田 目的地: フランクフルト国際空港 経由地: バンコク 復路 出発地: フランクフルト国際空港 目的地: 成田 経由地: なし
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: タイ国際航空 料金: 103890 円 復路 航空会社: 日本航空 料金: 58000 円(マイル利用) ∴ 合計: 161890 円
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: 行きはエクスペディア、帰りは日本航空のサイトから) <input type="checkbox"/> その他()
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: Glückaufstraße48) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
"Studierenwerk Siegen"という、大学が運営している会社?から住居を探しました。多くの交換留学生はこの会社の寮に住んでいます。寮に応募をすると、住人のリストが送られてきます。そして個人的に住人に連絡をとり、部屋を決めます。ただ、私はこの方法では部屋を見つけられず、最終的には会社に部屋を決めてもらいました。
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
トルコ出身の学生三人と住んでいました。毎日の様に会いますから、彼らとの仲はとてもよかったです。よく一緒にパーティーに行ったり、たまにトルコ料理を振る舞ってくれたりしました。寮にはパーティ用のスペースがあり、毎週火曜日にはパーティーが開かれました。私が住んでいた Glückaufstraße の評判は高くおすすめできます。Adolf-Reichwein-Straße はバスの接続が少し Glückaufstraße よりも劣りますが、評判はいいです。ただ、Engsbachstraße の評判は友達の中で低かったです。バスの接続が悪く、またトイレとキッチンを多くの人と共有しなければならないために汚いらしいです。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: 一度首の肌が荒れてしまい、皮膚科に行こうとしました。しかし皮膚科の予約は数ヶ月先まで埋まっていたため諦めました。結局は薬局でクリームを買いました。)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 同居人が大麻を吸っており、ドイツについて当初はカルチャーショックから対応に困りました。そこで交換留学生を担当している大学の職員の方に連絡をとり、面談をしてもらいました。特に問題はないとのことでした。)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

ドイツの治安は非常によかったため、あまり注意はしませんでした。ジーゲンにいる時は、財布と携帯をズボンのうしろポケットに入れていましたが、何も問題はありませんでした。大きな町や人ごみの中にいる時は、一応スリに注意していました。フランクフルト駅の周辺や、風俗街など特定のエリアではある程度治安が悪いのですが、基本的には安全だと思います。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のWiFiは問題ありませんでした。キャリアの変更が面倒だったため、携帯は楽天モバイルの海外ローミングを1年間使用していました。毎月1000円ほどです。月に使えるのは2GBまで、標準アプリでの通話は高すぎるためできない、など不便でした。あまりおすすめはできません。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

住民登録の際に求められるため、閉鎖口座にドイツで暮らすための十分な資金がなければなりません。私は Expatrio というサービスを使用していました。ドイツに行く前に、滞在期間に応じて決められた金額を閉鎖口座に振り込みます。そして、大学のオリエンテーション期間に大学のサポートのもと Sparkasse で普通口座を開設します。次に閉鎖口座と普通口座を結びつけます。すると、毎月一定の額が閉鎖口座から普通口座に引き落とされ、生活費を手に入れることができます。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

日本食は高いですが現地で手に入れることはできます。醤油やミリン、海苔などの限られた商品しかありませんが、ジーゲンにはいくつかアジアスーパーがあります。また片道二時間半ほどかかりますが、デュッセルドルフという日本人街があります。そこに行けば、大体の日本食は手に入ります。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
45 単位	<input checked="" type="checkbox"/> おそらく 22 ほど単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
English Target Level C1.1	英語 C1.1 レベル
科目設置学部・研究科	Language center
履修期間	Winter 23/24
単位数	6
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 210 分が 1 回
担当教授	Dr. Hendrik Winterstein
授業内容	教科書にそって授業は進みます。高校の英語の授業とは異なり、四技能を鍛えられました。
試験・課題等	中間試験と期末試験がありました。教科書の問題を解く課題、一人で話す動画を提出する課題、オンラインで問題を解く課題、がありました。
感想を自由記入	成績は良くありませんでしたが、授業は難しくなかったです。扱われる内容は環境問題など英語教科書の定番であり、他の授業で読む文章のように、複雑であったり、専門用語が出てきたりする事がなかったためです。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
German 2 - Target Level A1.2	ドイツ語 A1.2 レベル
科目設置学部・研究科	Language center
履修期間	Winter 23/24
単位数	6
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 210 分が 1 回
担当教授	Edith Münch
授業内容	下から数えて二つ目のドイツ語の入門コースです。
試験・課題等	期末試験と、2 回の中間試験、スピーキングの試験がありました。教科書の問題を解く宿題とライティングの宿題が毎週ありました。
感想を自由記入	入門コースにも関わらず、先生はほぼドイツ語のみで話していました。授業を履修した当初は数字が聞き取れないため教科書が開けずに戸惑いましたが、徐々に慣れる事ができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
German 3 and 4 - Level A2	ドイツ語 A2 レベル
科目設置学部・研究科	Language center
履修期間	Summer 2024
単位数	6
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に月曜 90 分、水曜 210 分が毎週。回
担当教授	Cornelia Grauel
授業内容	A1.2 コースをとった次の学期に履修しました。
試験・課題等	期末試験と、2 回の中間試験、スピーキングの試験がありました。教科書の問題を解く宿題とライティングの宿題が毎週ありました。
感想を自由記入	週に五時間も授業があったため大変でした。ただドイツ語学習の意欲があったため楽しかったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Populism in Europe	ヨーロッパのポピュリズム
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Winter 23/24
単位数	6
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Marian Pradella
授業内容	ヨーロッパのポピュリズムについて、主に理論面に着目して勉強する授業でした。毎週授業までに、定められた論文を読む必要がありました。授業中は教授からの問いかけや、ディスカッションの機会が多くありました。
試験・課題等	3単位をとるために授業内でのプレゼンをしました。もう3単位を取るために13ページのレポートを書きました。
感想を自由記入	論文の内容を理解するのも、ディスカッションで発言するのも難しかったです！授業内で何も言わないのは良くないと思い、発言をしようと何度か挑戦しましたが、十分にはできませんでした。プレゼンでは、トルコ出身の留学生とトルコのポピュリズムについて発表しました。同居人であるトルコ人と普段からトルコ政治について話していたこともあり、興味を持っていたためです。またレポートでは、トルコの大統領である「エルドアンはメディアを操っているが、なぜまだ支持されているか」について書きました。必要とする情報の載った英語論文を探して、レポートを構成するのはとても大変で多くの時間を要しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Sociology of Dying - A Comparison of Care Processes in Europe	死の社会学。ヨーロッパにおけるケアプロセスの比較
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Winter 23/24
単位数	3
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Eva-Maria Willis
授業内容	死ぬってなに？安楽死ってどうなの？などといったトピックを扱う授業でした。毎週授業までに、定められた論文を読む必要がありました。授業中は教授からの問いかけや、ディスカッションの機会が多くありました。
試験・課題等	学期末にワード一枚分ほどの感想を提出しました。
感想を自由記入	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Literary and Cultural Studies (Group I)	文学と文化研究入門
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Winter 23/24
単位数	6
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Dr. Marcel Hartwig
授業内容	小説、詩、劇の表現技法や種類などについての講義でした。講義ですので、教授が一方向的に話すスタイルです。
試験・課題等	出席と期末試験です。
感想を自由記入	他の授業ではなかったことなのですが、教授の英語がほぼ分からず、毎週ボートと聞いていました。ですので、期末試験前に勉強しようとするも全く分からず、試験でも全く分からず、ほぼ白紙の答案を提出しました。確実に落単したと思っていましたが、なぜか単位が来ました。おそらく交換留学生は優遇されたのでしょうか。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Studying "outer space" Science as earthbound culture and practice	「宇宙」の研究。地球に縛られた文化と実践としての科学
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Summer 2024
単位数	3
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Dr. Siri Lamoureux
授業内容	人々が、科学者がどの様に宇宙に考えてきたか、宇宙開発を行ってきたかを社会的な視点から捉えようとする授業です。
試験・課題等	五人ほどのグループで役割分担をして、与えられた論文の内容を噛み砕いてプレゼンテーションをし、論文を批評し、ディスカッションのお題を考え、クラスでのディスカッションを仕切る、ということを三度しました。
感想を自由記入	謎のテーマの授業で、決して簡単ではありませんでしたし、プレゼンの準備には多くの時間を要しましたが、何度もやるうちに次第に慣れる事ができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Feeling Europe and European Identity	ヨーロッパとヨーロッパアイデンティティを感じる
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Summer 2024
単位数	3
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Tim Handick
授業内容	アイデンティティとは何か、ナショナリズムとは、という話題から始まり、人々はEUに対してアイデンティティを抱いているかについて扱った授業でした。
試験・課題等	10分ほどのプレゼンテーションを一度しました。
感想を自由記入	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Sociology of Europe	ヨーロッパの社会学
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Summer 2024
単位数	3
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Univ. -Prof. Dr. Christian Lahusen
授業内容	EUでは色々統合されている、ヨーロッパでは西より東が貧しい、などヨーロッパに関する基本的な知識を統計を見つつ勉強する授業でした。教授が一方向的に話すスタイルです。
試験・課題等	授業後に毎回コメントを提出するという、日本の大学に近いものでした。
感想を自由記入	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
The British Political System	イギリスの政治システム
科目設置学部・研究科	Fakultät I
履修期間	Summer 2024
単位数	3
本学での単位認定状況	「未定」単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に330分が3(授業は全部で3回しかなかった)回
担当教授	Univ. -Prof. Dr. Robert Kaiser
授業内容	最初の二日間で、教授からの講義があり、三日目にプレゼンテーションを行いました。
試験・課題等	プレゼンテーション
感想を自由記入	自分で作ったプレゼンテーションをし、ディスカッションの質問を投げかけて、自らの意見をいう事ができ、他の授業で求められ続けてきたことが、最後によりやくしっかりとできた気がしました。



卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

10月が近づいていますが、就職活動はまだ始めていません。リクナビに登録したくらいです。始めなくてはなりません。

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

就職活動を始めていないため、何もいうことができません。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	TOEFL IBT 受験
	10月～12月	協定留学に出願、明治大学での面接
留学開始年	1月～3月	明治大学でのオリエンテーション
	4月～7月	明治大学でのオリエンテーション
	8月～9月	寮の決定、留学開始、ジーゲン大学でのオリエンテーション
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	留学終了、帰国
	10月～12月	



留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

多くの友達に恵まれたジーゲンでの生活はとて楽しかったです。ドイツに着いてばかりの頃に行われたオリエンテーションウィークでは、数えきれないほど多くの国から来た留学生たちと出会いました。そして大学のイベントやパーティで何度も会うなかで、彼らとの友人関係が次第に築かれていきました。毎日のように学食でランチをして、毎週のようにパーティで会い、何度も他の街へ一緒にお出かけをしました。特に思い出に残っているのが、寮で開かれたハロウィンパーティーです。ネットで買ったカツラと、友達から借りたスカートとブラジャーをつけて、Japanese high school girl の仮装をしました。ビールを飲みすぎたためそこまで覚えていませんが、みんなから可愛いと言われたことが忘れられません。また、友達と普通電車で片道 9 時間ほどかけてハンブルグやミュンヘンへ旅行したことも思い出に残っています。電車の中で延々と UNO をしながら、みんなで騒がしい旅行をするのはまるで修学旅行のようでとても楽しかったです。

また、交換留学生に加えてトルコ出身の正規留学生の友達も多かったです。同居人がみなトルコ出身だったこともあり、彼らと彼らの友達ととても仲良くなりました。よく寮のキッチンで飲み会をしたり、庭でバーベキューをしたりしました。またラマダン期間中にはタダメシがもらえるという理由だけで、信仰心のない彼らと毎晩モスクに通いました。モスク内の食堂でお皿を持って一列に並び、「セラムアレキュン」という宗教的な挨拶をしながら配膳を受け、そしてアザーンと共に一斉に食べ始めます。バターの効いたお米や豆と牛肉のスープなど、料理名こそ一つも分からないものの、トルコ料理は衝撃的においしかったです。

いわゆるドイツ人の友達はあまり多くありませんでしたが、タンデムパートナーとはとても仲良くなりました。タンデムとは言語を学ぶためのプログラムのことで、私は日本語を学んでいるドイツ人学生と週に一度会い、互いにドイツ語と日本語を教え合いました。といってもどちらも母語の文法はあまり分からないので、会話練習が中心でした。ドイツの文化や政治など様々なことについて酷い文法と乏しい語彙でなんとか話すことで、ドイツへの理解がいくらか深まりましたし、とても楽しかったです。

ただ、ドイツにいるのにドイツ人の生活への理解が乏しいことは依然として問題でした。そこで帰国前には、ドイツの農家で二週間ほどホームステイをしました。毎日農園で朝 8 時から 14 時まで働く代わりに、食事と部屋が無料で提供されるという仕組みです。キュウリやトマトなど様々な野菜を収穫したり、苗を畑に植えたり、雑草を取ったりするのが主な仕事内容でした。そして興味深かったことは仕事内容よりも、ホストファミリーの生活でした。彼らは環境保護にとっても気を使っていたため、ベジタリアンの食事をしていました。六時間の農作業の後に肉が食べられないのは残念でしたが、日本ではベジタリアンが一般的ではないため興味深かったです。また、彼らは買い物の際には環境に優しい BIO 製品のみを購入していました。私が見たのはあくまで一家庭にすぎませんが、環境先進国であるドイツの姿を見たように感じています。

これ以外にも、春休みに鉄道でトルコまで旅行をしたり、遊園地やクリスマスマーケット、ストリップクラブに行ってみたり、と様々な事がありましたが全てを書き連ねることはできません。ただ、留学はとにかく楽しかったです！

もちろん楽しいだけではなく、ストレスの溜まることもいくつかありました。不十分なドイツ語能力のせいで、買い物など日々の生活は決して快適ではなかったですし、また同居人とも掃除や買い物を巡って何度か言い争いをしました。そして何より人間関係が複雑でした。異なる文化的背景を持ち、勉学によるストレスを抱える多くの人々が、一つの学生寮に住んでいました。それゆえ、友達同士の仲が悪くなること、私と友達の仲が悪くなることが多く、その仲の良さ、悪さが網のように複雑に絡み合っていました。その網の中で生きることは結構なストレスでした。

しかし、いくつか困難はあったものの、全体では圧倒的に楽しさがそれを上回りました。そして留学はとても良い経験になったと思っています。ぜひ、皆さんも！

